

ありふれた自然の中に 温もりを見出して

過疎化が進む但東地域では、地区の活性化を目指し、都市と農村の交流が積極的に行われています。「まちを元気に」を合言葉にして、頑張っている一人の女性を紹介します。

能勢 初美 さん(53歳)但東町赤花在住



家業の機織りをしていた初美さん。人と人とのつながりを求めて、平成10年にご主人と一緒に農村体験館「八平」を開業。「経験したことがない分野に挑戦したい」と意欲をみせる

田舎暮らしを 体験できる「八平」

但東町赤花の主楼谷地区では、地場産業の機織りが低迷し、過疎が深刻化していました。

同地区在住の能勢さん夫婦は、まちの活性化を目指し、過疎化を逆手にとって都会の人たちを農村に呼び込もうと、農村体験館「八平」を営んでいます。

ご主人の勇さんは、関西初の「どぶろく」の製造や運営を担当し、妻の初美さんは、接客や食事の提供をしたり、掃除、片付けなどを一手に引き受けています。

初美さんは八平の魅力を、

「囲炉裏を囲んで田舎料理が味わえる、まるで親戚の家に遊びに来ているような雰囲気、気楽にのんびりできるところです」と話します。

豆腐やこんにやく作り、そば打ち、農業体験など、農村のありふれた生活が、都会の人たちにとって癒しを与えてくれる所として評判が高く、年間を通して都市部からたくさんの方が訪れます。

何も ないでも、何かある

能勢さん夫婦は、それまで農村体験館経営の経験がなかったため、開業後に悩んだことは、提供する料理でした。都会から訪れる人たちに満

足してもらえる料理を、手探りで考える日が続き、試行錯誤の末、訪れる人たちは日常と違う何かを求めていること」に着眼しました。

そして、自然のまま、ありのままの家庭料理を大皿に盛って提供する、現在のスタイルにたどり着きました。

「また来ます」の 一言がうれしい

初美さんは、「一度に10人を超すお客さまを受け入れるには、私たち夫婦だけでは無理があります。そんな時には地区の方々に協力をお願いしています。料理、火焚き、おしゃべりなどそれぞれが得意な分野を担当して支えてくれます」と話します。

地区の高齢者にとって、当初、都会の人と会うのは恥ずかしいという理由で敬遠されていました。しかし、訪れた幅広い年齢層の人たちといろんな話をして、交流を深めていくうちに、精一杯もてなして気持ちよく帰ってもらいたいという気持ちに、いつしか変わっていききました。

初美さんや地区住民の着飾らない人柄の良さもまた、八

平の魅力のひとつなのです。

世間から 必要とされる喜び

初美さんは、「今後は、宿舎横に公園を造って周りをコスモスで囲んでみたいですね。訪れる人たちを気持ちよく受け入れられますから。また、ゆつくりとくつろいでいただけるように、五右衛門風呂も計画中です」と自身の頭の中では次なる設計図も。世間から必要とされる喜びをかみ締めながら、日々の生活を楽しんでいます。みんなが楽しんで、まち全体を元気にしたいです」と目を輝かせていました。



八平では農業体験もできる。収穫した野菜はその日の夕食に並ぶ

学校探検 6

地域とふれあい 心が通う

竹野南小学校(竹野)

案内者 長^{なが}続^{つづ} 悟君



竹野南小学校は、国道178号沿いに位置し、校区は竹野町の面積の約半分を占めています。このため、児童の通学距離が長く、全校児童88人の約3分の1がスクールバスで通学しています。

この小学校に通う、児童会長の長続悟君(6年生)は、1年生から続けている剣道が1級の腕前です。武道を通じて培った元気のある声が自慢で、将来は声優になりたいという



周囲には自然豊かな農山村地域が広がる竹野南小学校

夢を持つ長続君に、竹野南小学校を紹介してもらいました。

6年間の小学校生活を振り返って、僕の一番思い出に残っている学校の行事は、「みなみタイム」という総合学習です。

みなみタイムは、学年ごとに自分達でテーマを決め、竹野の自然豊かな地域性を活かして、いろいろな活動に取り組みます。

僕たちの学年は、地域の方々とふれあって竹野をもっと知ることになりました。地区ごとにグループを作り、自分たちが担当する地区を訪問しました。

僕のグループは、山間部の川南谷地区の高齢者を訪問し、山あいの渓谷のそばに集落ができた歴史を学びました。さらに、竹馬や水鉄砲作りなど、昔ながらの遊びを教えていただき、地域の方との交流を深

めました。

地区を訪問して新たに学んだことや発見したことをレポートにまとめ、総合学習発表会で全校生に発表しました。発表会では、他の学年の活動を学んだり、レポートのまとめ方や資料の作り方などについて意見交換をして、さらに研究を深めます。

みなみタイムでは、普段の授業では学べないことを、友達と一緒に楽しみながら発見して、学ぶことができます。



「みなみタイム」は実習を通して、さまざまなことが発見できる

竹野南小学校では、自然を活かした集団生活の中で、お互いに協力しながら、探究心やふるさとへの郷土愛を育んでいけるような取り組みを行っています。

笑顔の輪

神鍋ジュニアスキーチーム(日高)

日高町の神鍋スキー場には、地元の小3年生から高校3年生までの子どもたちで構成する、「神鍋ジュニアスキーチーム」があります。現在会員数は31人です。

このチームは、スキー競技を通じて健全な青少年育成を目的に、昭和53年に発足しました。過去に、国体スキー競技会など、全国大会に多くの選手を輩出しています。

近年スキーは、スノーボード人気におされ、競技人口が減少していますが、同クラブでは、長年の伝統を受け継ぎ、選手の育成が今も活発に行われ、2月に開催される全国中学スキー大会に出場予定の選手がいます。

限られたスタッフで指導にあたっているため、練習時間が制限されるなどの問題もありますが、スキーシーズンになると、スキー場の協力を得て地元出身のコーチの指導のもと、毎週水曜の夜と土曜の朝にはゲレンデに集まって練

習を行っています。また、夏季トレーニングやスキー合宿などでは、信州や軽井沢に遠征に出向きます。

メンバーの田中善之さん(日高西中学校3年生)は、「スキー競技を通して培った集中力を、今後の勉強にも生かしたいです」と話していました。

スキー競技を通して得た友情や、みんなで同じ目標に向かって練習に励む連帯感など、学校とはまた違った交友関係が育まれています。



シーズンには週2回集まり、お互いの技術を高め合う子どもたち